

私立大学情報教育協会
平成 20 年度第 4 回サイバー・キャンパス・コンソーシアム
教育専門系グループ運営委員会 議事録(案)

- I. 日 時 : 平成21(2009)年 3 月 19 日(木)14:00~16:00
II. 会 場 : 私立大学情報教育協会事務局会議室
III. 出席者 : 三尾委員、竹熊委員(TV会議参加)、難波委員
井端事務局長、森下、恩田

議題

I. 報告

1. 事務局長報告

- (1) 本日の配布資料の報告・検討資料(9点)および参考資料(4点)に基づき「学士力」を中心とした報告。(詳細は、配布資料を参照のこと)
- (2) 私情協として、前回の各運営委員会が取りまとめた分野別委員会の「学士力」考察の中間報告を11月に文部科学省に行ったが、今年12月を目処に詳細な学士力を報告・提言する予定である。
- (3) 今後のスケジュールとしては、平成24年に向けて「学士力」に絞った検討を行う。
- (4) 私情協常務理事会では、「人材育成産業連携構想の具体化」を提案し、平成21年度より3年程度の試行期間で実施する。

2. 本運営委員会としてのスケジュールの確認

- (1) 上記以外に、大学教育の分野別質保証の在り方検討委員会の分科会の構成案およびスケジュール(案)が出た。
- (2) それに沿って、教育学分野の「学士力」の具体化についての提言内容について検討する必要があることを確認した。

II. 協議

1. 学士力の詳細設計について

- (1) 共通の到着目標をイメージしたコア・カリキュラム、到達目標、測定手段の検討について
 - ・事務局長報告(2)の12月提案に間に合うように検討することを確認した。
 - ・第3回運営委員会においてまとめた「教育学における学士力」(最終案)についての各項目を具体化(イメージ化)する方向へと検討を行う。
 1. 学びの意義と教育の必要性を論理的、分析的に理解できる。
 2. 意欲と能力に応じた学びに配慮した教育をデザイン(設計、実施、評価、改善)できる。
 3. 教育が直面する課題や問題に自らが積極的に関心を持つことができる。
 4. 教育学を学んだ者としての責任と義務について、その重要性を自覚できる。

(2) 本日の配布資料を各自が有効利用して自由に、メール交換などにより相互に内容を検討する。

- ・意見交換した骨子を、次回の運営委員会において内容を深めることとした。
- ・4月中は、自由な意見交換を行う。

2. 次回の委員会開催日について

- (1) 日時:5月8日(金)14:00~16:00
- (2) 会場:私立大学情報教育協会事務局会議室
- (3) 議題:
 - ① 4月中に意見交換をしたプロット等の整理と、今後の活動内容およびスケジュールの検討
 - ② その他

III. 配布資料

1. 報告・検討資料

- ① 分野別委員会の活動について
- ② 分野別「学士力」考察の中間報告(お願い)
- ③ 各専攻分野を通じて培う「学士力」(抜粋)
- ④ 人事育成産学連携構想の具体化(平成20年12月9日、私情協)
- ⑤ 修了者が身につけるべき能力示す(執筆者:齊藤剛史教育ジャーナリスト、内外教育2009年1月20)

日抜粋)

- ⑥ 大学教育の分野別質保証の在り方検討委員会分科会の構成案
- ⑦ 大学教育の分野別質保証の在り方検討委員会(名簿)
- ⑧ 英国QAAによる分野別のベンチマーク・ステートメント
- ⑧.1 上記の英文(Education studies 2007)

2. 参考資料:4点

- (1)「学力確保へ高校でテスト」(2009年2月8日新聞記事)
- (2)「教育問題委員会(小林いずみ委員長)提言 18歳までに社会人としての基礎を学ぶ」
(経済同友会最前線抜粋記事)
- (3)『大学教育と情報』(Vol17 No3,2008 社団法人私立大学情報教育協会)
- (4)「学士課程教育の構築に向けて」(中央教育審議会 平成20年12月24日)

3. 運営委員名簿

以上